

次に備えて「今を知る」

間もなく雨水を迎え、草木が芽ぐみ始める時分となります。春が近づいています。

田中修氏著書『植物はすごい』に、「植物たちは、タネができあがると、強い子どもが育つように、子どもたちを新天地へ放り出すのです。どんな環境に出会っても、強く生きていってほしいとの思いが込められているのです。新天地へ放り出される子どもたちも、その期待を担って親元を離れていきます。植物たちの「親離れ」「子離れ」のよさは、“すごい”のです」と書かれています。その「すごさ」には大いに考えさせられます。

学校生活の一年間を締めくくる3学期も半ばを過ぎました。卒業後あるいは次の学年に向けた準備が大詰めを迎えています。次に備えるためには「今を知る」ことが大切になります。この一年間で、生徒の皆さんは心身共に随分成長しました。中でも、心の成長の様子は様々な行動に表れています。友人関係や言葉遣い、趣味やこだわり等はどうか変化したのでしょうか。親への言葉遣いも含め、親が子どもの何気ない様子の変化を見ることは、まさに次に備えて「今を知る」ことになります。

このとき、親が関わることを煙たがるお子さんもおられると思いますが、親が「子どもを理解しようとする」という思いは決して間違っていないと思います。少年期の子どもには『手は離しても、目は離すな』と言われる。子どもと本気で向かい合い、うるさがられても子どもの行動から目を離さないことが重要であり、子どもに「親を理解させる」ことが大切なのです。このような親の心構えは、「子どもの成長への確信」や『植物はすごい』に通じるものがあると思います。

特に、高校受験を控えた3年生には、いろいろと気を遣うことが多いと思いますが、お子さんのこれまでの努力を信じ、励まし続けていただきたいと思います。

スキー教室(1年生)が行われました

1月25日に、二本松市教育委員会による中学1年生を対象とした「元気な児童生徒育成支援事業スキー教室」が、天候・ゲレンデ共に絶好のコンディションの中、あだたら高原スキー場で行われました。

生徒は、7班に分かれ、それぞれインストラクターのご指導を受けながら、楽しくゲレンデを滑走していました。小学校の時にもこの事業でスキー教室に参加していることもあり、スキーの技術はなかなかのものでした。



1年生は、秋に安達太良登山を行い冬にはスキーと、安達太良山の豊かな自然を満喫してきました。これらの経験を通して、1年生の皆さんはふるさとの素晴らしさを再認識することができたのではないかと思います。

【二本松三中生の活躍】

- ◎ 福島県算数・数学ジュニアオリンピック 銅メダル 武田 爽汰(3年)
- ◎ 福島県書きぞめ展 書きぞめ賞 大内 奏(1年)
- ◎ 安達管内少年少女中学校バスケットボール大会 女子3位
- ◎ 安達支部中学生Sリーグ 男子ソフトテニス部 団体3位 野地・大内組2位
女子ソフトテニス部 添田・大津組3位